

沖縄県知事選 デニー勝利と私たちの課題 11/29

- (1) 講演：伊波洋一（参議院議員・沖縄の風）
発言：小泉雅英
澤藤統一郎
中瀬勝義
二見伸明（予定）
吉田万三（沖縄を自分の問題として考える会・代表）

閉会挨拶：村岡到

司会：武市徹

- (2) 日時：2018年11月29日（木曜）19:00～21:00
(3) 場所：文京区民センター 3C（地下鉄後樂園駅 徒歩5分）
(4) 主催：沖縄を自分の問題として考える会
〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-1-22 新宿コムロビル 7F 2号室 進路社 気付
(5) 資料代：700円
(6) 主旨：

9月30日（日曜）投開票の沖縄県知事選で玉城デニー氏（自由党幹事長）が圧勝した。

自民・公明・維新・希望推薦の佐喜真淳（前宜野湾市長）に8万余の大差をつける39.6万票を獲得した。

自民党は菅義偉官房長官や小泉進次郎議員を投入し、公明党指導部は全力投球で本土から動員して期日前投票に集中した。

だが、自民・公明の支持層の3割近くが玉城氏に投票したようである。

最大の争点であった普天間基地の辺野古移設に関する沖縄の民意は明確に示された。

命を賭けて辺野古移設反対を貫いた翁長知事の遺志は見事に受け継がれた。投票の翌日、「ニュー YORK・タイムズ」電子版は社説で「沖縄の米軍縮小に向けて」とタイトルして「日米両政府は妥協策を探る時だ」と提言した。

きわめて異例である。

投票の10日前の自民党総裁選挙で3選された安倍晋三首相への決定的痛打である。

沖縄に米軍基地を押し付けて「平和」を享受してきた本土の私たちにはどのような課題が突きつけられているのか。

- (7) 日本革命党の立場：

機関紙連絡先進路社代表の武市徹が「沖縄を自分の問題として考える会」の「呼びかけ人」として参加し、「チラシの配布」「寄付金・沖縄現地激励呼びかけ」などに取り組んできた。

意図的に作り出された少数や部分として抑圧されている国民・人民が、抑圧の実態の解明、原因の分析と解決の政策、連帯を獲得したとき、圧倒的な多数派であることを再発見し、安倍自公（維）政権の分断支配を打ち破る根源的な力を発揮するとの立場から紹介し参加する。